

## 遺伝医学合同学術集会 2011 にご協力いただきましたすべての方々へ

盛夏の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびの遺伝医学合同学術集会 2011 では、「遺伝医学・遺伝医療におけるネットワークの活性化を目指して」をテーマに、初めての試みとして、第 35 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会、第 18 回日本遺伝子診療学会大会、第 17 回日本家族性腫瘍学会学術集会を合同学術集会として、6 月 16 日より 19 日まで、京都大学百周年時計台記念館にて開催させていただきました。

準備段階では予想のつかないことが多かったですが、ふたを開けてみると例年の 3 学会の学術集会の参加者数の和をかなり上回る参加者があり、招待演者や患者会関係者、企業関係者、関連スタッフ等を含めると総勢約 900 名が学術集会期間中に京都大学百周年記念館に集ったこととなります。各会場とも活発な議論と交流が行われました。

このように大変盛会のうちに無事学術集会を終了することができましたのは、ひとえに皆様方のご協力、ご理解の賜物と存じます。特に、合同学術集会開催をご了解いただいた 3 学会の理事会・評議員会関係者の皆様、合同学術集会にふさわしい大変充実したプログラムを作成いただいたプログラム委員会やオーガナイザーの皆様、ご多忙のところ各領域における最新の情報をわかりやすく参加者にご講演いただいた非学会員を含むシンポジスト等演者の先生方、タイトな時間配分のなか座長の労をお取りいただき活発な討論に導いていただいた先生方、一般演題を応募され新しい知見を報告いただいた多数の演者の皆様、合同学術集会の趣旨に賛同され、共催セミナーや機器展示等を含む多大なるご支援をいただきました企業関係者の皆様、3 学会では初めてと思われる患者会ブースにご協力いただきました多数の患者会関係者の皆様、合同学術集会に出席いただいたすべての方々にあらためて厚く御礼申し上げます。

合同学術集会の開催の最大の趣旨である「ネットワークの活性化」については、たくさんの新しい交流が生まれたとお伺いしています。異なる学会の会員間はもちろん、患者会関係者と学会員間、患者会間や企業関係者間にも新しいネットワークが誕生したようです。合同学術集会をきっかけとして連携のさらなる発展を望みます。

また、学術集会期間中の各学会への入会者も例年以上であったと聞いています。学術集会終了後も関連ができた他の学会にも入会される方が増えることを希望いたします。来年は、それぞれ、松本、千葉、大阪と例年通りの学術集会の開催になりますが、それぞれの学術集会への参加者もこれまで以上に増えることが期待されます。

東日本大震災の被災地からも、困難な状況をおして学術集会へ多くの参加をいただきました。被災地域では難病患者さんや障がい者の方などの社会的弱者がより困難な状況にあるとの報告もありました。多様性の学問である遺伝医学を志す者として、震災であらためて認識されたといわれる人と人とのつながりや絆の大切さを胸に、この学術集会で形成された新たなネットワークを発展させ、学問・医療・社会へ寄与できることを祈念して、遺伝医学合同学術集会 2011 での皆様への御礼のことばにかえさせていただきます。

平成 23 年 7 月吉日

遺伝医学合同学術集会 2011 大会長

京都大学医学研究科 医療倫理学・遺伝医療学 小杉真司

